

平成26年(2014年)6月1日発行



電気電子工学科・飯塚研究室での審査

①環境教育のさらなる... 環境教育のさらなる推進... 環境教育のさらなる推進... 環境教育のさらなる推進...

②学生との環境改善活動... 学生との環境改善活動... 学生との環境改善活動... 学生との環境改善活動...

③化学物質管理システム... 化学物質管理システム... 化学物質管理システム... 化学物質管理システム...

④省エネ推進の積極的取り組み... 省エネ推進の積極的取り組み... 省エネ推進の積極的取り組み... 省エネ推進の積極的取り組み...

⑤環境管理活動の推進... 環境管理活動の推進... 環境管理活動の推進... 環境管理活動の推進...

環境マネジメント活動の推進 ISO14001年度地域連携を通じ、学生の環境マインドを育成

今年で14年目を迎えた... 今年で14年目を迎えた... 今年で14年目を迎えた... 今年で14年目を迎えた...

今年で14年目を迎えた... 今年で14年目を迎えた... 今年で14年目を迎えた... 今年で14年目を迎えた...

今年で14年目を迎えた... 今年で14年目を迎えた... 今年で14年目を迎えた... 今年で14年目を迎えた...

大川陽康奨学金・学業奨励奨学金 受給者決定



学業奨励奨学金受給者(建築デザイン学群)と波多野学長

129名の受給者を認定... 4月9日(水)、情報工学科棟5階会議室において、大川陽康奨学金および学業奨励奨学金受給対象者の認定証授与式が執り行われた。

129名の受給者を認定... 129名の受給者を認定... 129名の受給者を認定... 129名の受給者を認定...

129名の受給者を認定... 129名の受給者を認定... 129名の受給者を認定... 129名の受給者を認定...

129名の受給者を認定... 129名の受給者を認定... 129名の受給者を認定... 129名の受給者を認定...

129名の受給者を認定... 129名の受給者を認定... 129名の受給者を認定... 129名の受給者を認定...

第6回 3D-CADプロダクトデザインコンテスト

『風』や『水』を活かすもの

本コンテストは3次元CADを用いてデザインし、ものづくりの最先端技術を学ぶことができる。高校生なら誰でも参加でき、募集作品はテーマ部門(『風』や『水』を活かすもの)...



優秀作品は立体化して展示

高校生対象のコンテストを開催します

高校生対象のコンテストを開催します... 高校生対象のコンテストを開催します... 高校生対象のコンテストを開催します...

高校生対象のコンテストを開催します... 高校生対象のコンテストを開催します... 高校生対象のコンテストを開催します...

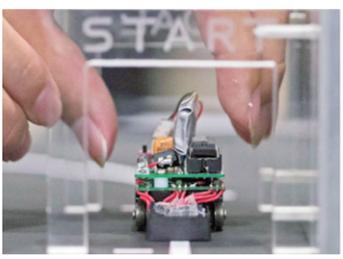
高校生対象のコンテストを開催します... 高校生対象のコンテストを開催します... 高校生対象のコンテストを開催します...

高校生対象のコンテストを開催します... 高校生対象のコンテストを開催します... 高校生対象のコンテストを開催します...

第8回 マイクロボコン高校生大会

1インチ角のロボットで競う

9月13日(土)、本学で開催される。本コンテストはほぼ1インチ角の中に必要な機能を内蔵したロボットが自律的にコースを走行し、タイムを競う。前年度から入門者を対象としたノビス部門を新設している。



自走する小型ロボットでコースタイムを競う

第28回 建築設計競技

公の家

第28回目となる、建築を学ぶ高校生を対象とした日本工業大学建築設計競技の今年のテーマは「公の家」。審査は建築家の柳澤潤氏(テンポラリーズ主宰)を迎え、本学建築学科小川次郎教授と生活環境デザイン学科金野千恵助教の3氏で行われる。



入賞作品はLCセンターで展示

オープンキャンパス

無料バスを運行します!詳細はWEBサイトで

NIT夏のオープンキャンパス

6/8(日) 7/19(土) 8/2(土)・3(日) 8/23(土) 9/7(日)

オープンキャンパス・進学相談会

11/22(土)

各開催日とも11時開始(ランチ付)

お問合わせ・お申込み先:教務部入試室

URL: www.nit.ac.jp 携帯URL: www.nit.ac.jp/k

☎0120-250-267 E-mail: nyu-shi@nit.ac.jp



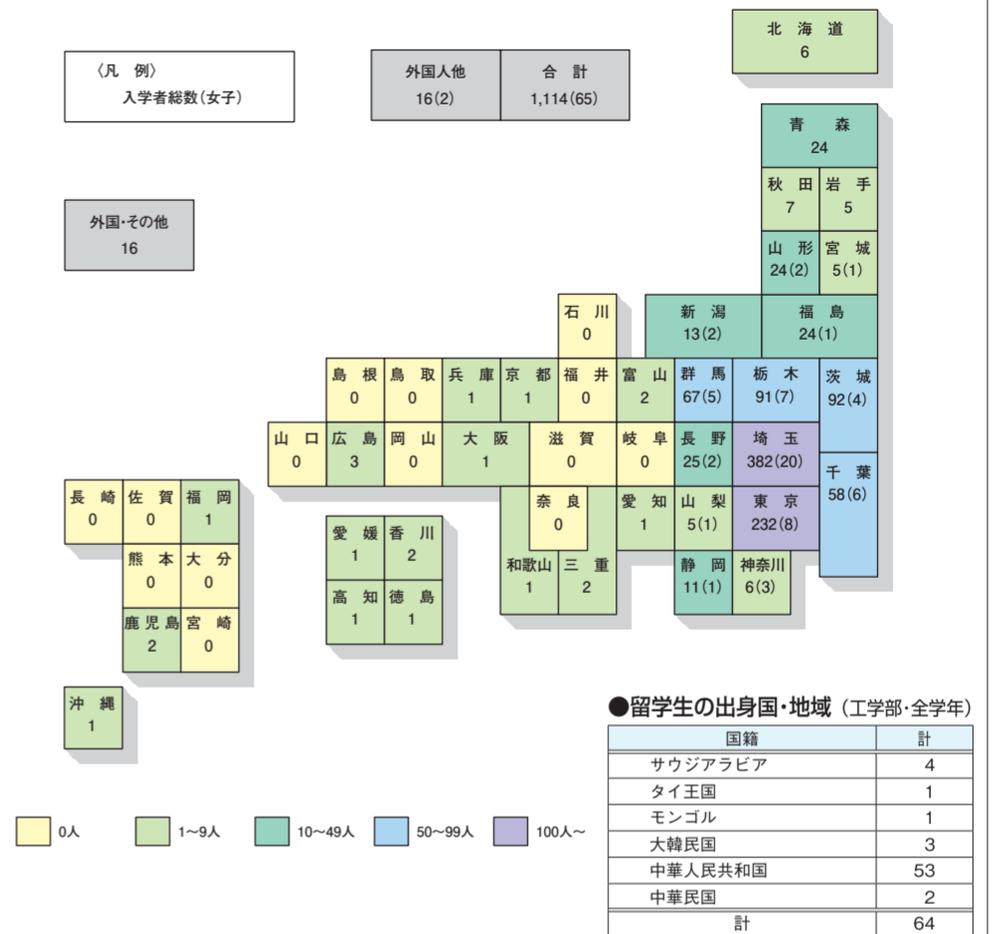
ご紹介する「2015大学案内」、女子の受験生向けに本学の特色をコンパクトに紹介する「ブックレット」を刊行。ご希望の方は、教務部入試室(0120-250-267)まで。

新入生の出身地マップ

33都道府県から1,114名が入学

本学工学部の平成26年度都道府県別入学者数がまとまった。総入学者数は1,114名(入学定員は1,000名)。うち女子学生は65名である。都道府県別入学者数は、

昨年に続き埼玉がトップで382名。次いで東京が232名、茨城92名、栃木91名、群馬67名がベスト5である。入学者は、全国33都道府県から集まっている。



本年度の入学者

大学院技術経営研究科・教授 近江 正幸

2005年に学園創設の地である神田に設立された専門職大学院に、10期生という区切りの新入生21名がこの春入学した。

本年度の21名の入学者の年齢構成は30歳代が10名、40歳代が8名、50歳代が3名である。ビジネスパーソンとして脂の乗り切った30〜40歳代中心の構成である。

専門職大学院では実務経験を受験の条件とするため、若い入学者でも20歳代中盤から後半である。今年度は残念ながら20歳代の入学者はいなかった。また、仕事がかひと段落した60歳代も毎年、数名入学されるが、今年度は60歳代の院生はわずか、そのため院生の年齢の幅が例年と比較すると縮小した。

過去の修学に関する学歴は、大卒以上10名、短大・高专卒7名、高专等4名である。日本工業大学の卒業生や英国やフランスの大学で学ばれた方、中国の学校で学ばれた方も入学し、多様な学歴をもつ人々との交流が新しい刺激となると思われる。

学歴から理系と文系に分けると、理系13名、文系8名になる。工業系大学の大学院で、技術経営を学ぶ大学院といっても、必ずしも理系出身の方々が入学しているとは言いえない。理系・文系の枠を取り払い、技術と経営の融合を図る本大学院の特徴が現れている。本大学院の入学者は毎年約100名程度で、秋・冬の4学期、1年間で修了する独特の修学システムをとり、他の大学

院では当たり前前の学期間の休暇は、ほとんどない。1年間、院生は授業への出席と課題(宿題)の対応に追われる。入学直後の院生に「大学院に入り、何が一番大変か」と聞くと、多くの学生が「今までの働き方を変え、通学および出席と勉強の時間を作り出すことだ」との答えが返ってくる。また、少し時間が経過し、夏ごろになると、ほとんどの院生が「時間の管理が上手になり、部下を信頼して権限委譲が円滑にできるようになった」と話す。大学院入学の勉強以外の副次的効果である。このような新入生の1年後の成長が楽しみである。

学生自治会 新入生歓迎イベント

毎年春には、学生自治会が主催する新入生を歓迎するイベントが開催される。本年度の新規企画として、学生生活向上委員会による「ウェルカム・パーティー」が3月25日(火)にスチューデントセンターで開催されたのを皮切りに、4月3日(木)の入学式終了後には学生自治会主催のクラブ勧誘を実施する予定であったが、雨天の為中止。改めて4月9日(水)から18日(金)の期間に実施され、新入生は、先輩が配布しているクラブ紹介のチラシを興味深そうに読んでいた。またその場で、先輩にクラブ活動の内容の説明を受け、仮入部をしている学生も見受けられた。

4月12日(土)には、毎年恒例の大学祭実行委員会主催の春のぼかぼかコンサートが行われた。昨年このイベントは体育館が改修工事のため使用できず、スチューデントセンターでの開催となったが、本年は改修された新装の体育館にて開催された。

今回の出演者は、「お部屋探検MAST」のテレビCM等でおなじみのシンガーソングライター奥華子さん。実力派のライブだけに、この日を心待ちにしていた学生も多く、開場前から体育館の入り口付近には入場を待つ学生や一般のファンが列ができていた。開演後は改修に伴い広くなったフロアにおよそ400人の学生、ファンが入場し大盛況で、会場は熱気と歓声で大いに盛り上がっていた。

5月24日(土)には、体育祭実行委員会主催の第47回体育祭が、グラウンドで開催された。今回もイベントは体育館が改修工事のため使用できず、スチューデントセンターでの開催となったが、本年は改修された新装の体育館にて開催された。

今年度は、学生自治会が主催する新入生を歓迎するイベントが開催される。本年度の新規企画として、学生生活向上委員会による「ウェルカム・パーティー」が3月25日(火)にスチューデントセンターで開催されたのを皮切りに、4月3日(木)の入学式終了後には学生自治会主催のクラブ勧誘を実施する予定であったが、雨天の為中止。改めて4月9日(水)から18日(金)の期間に実施され、新入生は、先輩が配布しているクラブ紹介のチラシを興味深そうに読んでいた。またその場で、先輩にクラブ活動の内容の説明を受け、仮入部をしている学生も見受けられた。

後援会定期総会 実施報告

5月25日(日)、大学学生会館において後援会定期総会が開催された。第1号議案「平成25年度事業報告」、第2号議案「平成25年度決算報告」、第3号議案「平成26年度事業計画」、第4号議案「平成26年度予算」、第5号議案「理事・監事の銜衡」は、慎重審議の上、全て承認され、総会は無事終了した。

新執行部は次の通り。
会長 沼尻裕之(埼玉)
副会長 畑中昭博(福島)
中村 猛(埼玉)
大城末治(沖縄)
西村俊昭(山形)
総務 西村俊昭(山形)

新入生対象のフレッシュマンキャンプを実施



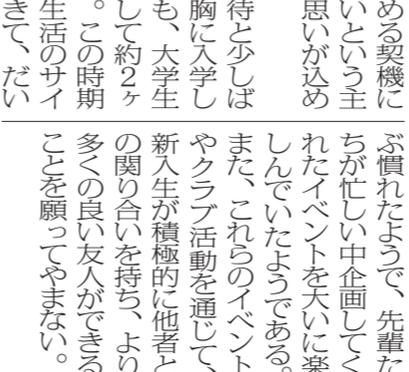
学生生活に関するガイダンスと新入生同士や先輩、教員との親睦を目的として、昨年からフレッシュマンキャンプを実施している。今年は4月4日(金)から6日(日)の期間、各学科とも1泊2日の日程で実施された。キャンプは学科ごとに企画され、移動中のバスや宿泊先において大学生活に関するガイダンスやオリエンテーションが行われたほか、施設の見学や

学科	宿泊場所	主な実施内容
機械工学科	福島/那須甲子少年自然の家	キャンプファイヤー、東武ワールドスクエア見学
ものづくり環境学科	埼玉/日本工業大学合宿棟	屋外炊飯、スポーツイベント
創造システム工学科	埼玉/さしま少年自然の家	スポーツを通じた交流、夜間研修
電気電子工学科	福島/磐梯青少年交流の家	大内宿散策
情報工学科	山梨/ホテル美富士園	河口湖周辺散策
建築学科	福島/磐梯青少年交流の家	大内宿散策、鶴ヶ城見学
生活環境デザイン学科	千葉/水郷小見川少年自然の家	佐原のまち散策、就労継続支援施設見学

ビジネスプランコンテスト

本年度9回目となるビジネスプランコンテストが実施される。本年より「ものづくり特別賞」が新設され、受賞者はプランを実現させるために必要な「ものづくり」に関わる材料費等を補助される。

■エントリー：6月16日(月)～28日(土)
■応募期間：7月15日(火)～8月2日(土)
詳細は、産学連携起業教育センターHPを参照
<http://www.nit.ac.jp/center/cooperation/iu.html>



昨年の表彰式

学生支援部長賞受賞者決定

3月14日(金)、学生支援部長室にて、平成25年度の学生支援部長賞の表彰式が行われた。

今年の表彰は、団体3組(秋元研究室、機械工学科「Quadric surface」、

アーチェリー部)と個人7名(佐竹裕斗君、後藤圭裕君、小林貴宏君、工藤貴大君、代田廉君、松永直樹君、小林奏太君)が受賞対象となり、学生支援部長より表彰状と賞品が授与された。



受賞者一覧

氏名又は団体名	学科	申請内容
佐竹 裕斗	情報	応用情報技術者試験合格
後藤 圭裕	情報	応用情報技術者試験合格
小林 貴宏	情報	応用情報技術者試験合格
工藤 貴大	情報	ネットワークスペシャリスト試験合格
代田 廉	建築	人命救助
日本工業大学 秋元研究室	創造システム	フリースケールカップ準優勝
機械工学科 「Quadric surface」	機械	東京デザイナーズウィーク 2013 ASIA AWARDS学校作品展入賞
松永 直樹	機械	東日本理工系大学体操競技選手権大会個人総合1位 全日本学生体操競技選手権大会個人出場
小林 奏太	建築	第12回世界室内アーチェリー選手権大会出場
アーチェリー部		関東学生理工系定期戦 優勝

品質工学会の 2014年度学生賞を受賞



機械工学専攻博士前期課程2年(当時)二ノ宮研究室所属の深谷健介君が3月14日(金)、品質工学会の2014年度学生賞を受賞した。表彰式は同学会理事2名が来学し、学長室で行なわれた。

全体工程を安定化させるとともに、工程の自動化に大きく寄与した。深谷君は「自分の研究が評価されて非常に嬉しい。電気料金を少しでも安価にするため、生産技術からアプローチで取り組んだ。高校教員として就職したので、今後は大学で学んだ多くの教訓を生徒指導に活かしたい」と抱負を述べている。

卒業設計コンクールで 最優秀賞を受賞

4月13日(日)、埼玉建築設計監理協会主催の第14回卒業設計コンクールの審査が行われ、生活環境デザイン学科4年の橋本温子さんが最優秀賞、建築学科4年の石岡志保里さんが特別審査員賞を受賞した。

橋本さんの受賞作品は「寄りの停留所」バスルートの繋がらぬのコミュニティ。まちを歩いて生活する人のための交通手段であるコミュニティバスに着目し、バス停に付随する「寄り道」空間を提案。石岡さん

授業時間を100分に変更

- ① 9:10~10:50 ② 10:55~12:35 ③ 13:20~15:00
- ④ 15:05~16:45 ⑤ 16:50~18:30 ⑥ 18:35~19:25

今年度より、より一層の教育効果をあげることを目的に1コマの授業時間を従来の90分から100分とし、時間割が上記のとおり変更となった。これに伴い授業回数が減り、祝日の授業実施日がなくなったが、1科目あたりの学修時間はむしろ増加している。昼休み時間短縮に伴う食堂の混雑緩和のため、弁当販売を開始するなどの対応をとっている。なお、6時限目は通常授業は行わず、補講がある場合の時間帯として設定した。

LCセンターからニュースレター発行

LCセンターでは、学生の皆さんに図書館をより身近に感じてもらえるように、ニュースレター「息抜きの散歩道」を創刊した。初号には、本学教員による本の紹介、院生からのLCセンター利用のコツなどを掲載した。LCセンターにて配布しているの、是非ご覧いただきたい。



就職支援情報

企業の採用意欲は回復傾向。学生の意識も変化。

来春大卒予定者の採用活動が本格化している。昨年度末から企業の採用意欲は徐々に回復傾向にある。特に建設業を中心とした施工管理について、新規企業の求人目立ち、中には「推薦枠」を設ける企業も出てきた。大手企業はもちろんのこと、中堅中小企業は人手不足をなんとか補いたいためにリクルーター訪問や学内合同企業説明会への参加依頼が目立った。本学においては、これまで同様に「学内合同企業説明会」をメインとして学生と企業との接点を作ってきたが、今年はちょっとした変化があった。

このコンクールは、新しい世紀の第一線で活躍が期待される建築系学生の能力向上、育成を図ることを目的に、同協会の建築系学生奨励事業として毎年実施されている。

多得票であった橋本さんの作品が最優秀賞に選出された。

来春大卒予定者の採用活動が本格化している。昨年度末から企業の採用意欲は徐々に回復傾向にある。特に建設業を中心とした施工管理について、新規企業の求人目立ち、中には「推薦枠」を設ける企業も出てきた。大手企業はもちろんのこと、中堅中小企業は人手不足をなんとか補いたいためにリクルーター訪問や学内合同企業説明会への参加依頼が目立った。本学においては、これまで同様に「学内合同企業説明会」をメインとして学生と企業との接点を作ってきたが、今年はちょっとした変化があった。

これからの企業は国内だけではなく世界を相手として戦わなければならない環境に置かれる。オンラインの技術開発を進めるために、常識にとられない柔軟な発想力を持つて何事にも挑戦していく精神を持った若者(学生)を望んでいるのである。本学は、それに応えるべく教育をしていかなければならない。

就職支援課では、現3年生および大学院1年生のための「就職支援ガイダンス」は就職活動の基となる事項を実施する中で、これまでと違った企画を盛り込み実施することとする。

①企業の求める人材を直接企業サイドから伝えたいようにきく

②今、学んでいることがいかに大切であるか、また社会に出て役立つ基本となるものであるかを現場の先輩から直接伝える。

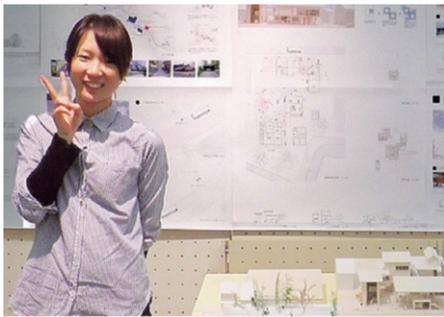
など、現場側の話を中心とし「働く」「仕事」に対する理解を深める内容とする。採用ルールがさらに厳しくなる中で、就職活動は短期決戦となることは間違いない。学生が惑わされな

んと方向性をつけ「内定」に結びつけるように支援をしていく。

就職活動真っ只中の4年生、大学院2年生はこれからが正念場である。大きな花を咲かせるため就職支援課を大いに利用していただきたい。



学内合同企業説明会



橋本さんと受賞作品

日本塑性加工学会 古閑教授にフェローの称号を授与

機械工学科の古閑伸裕教授が一般社団法人日本塑性加工学会より「フェロー」の称号を授与される運びとなった。6月6日(金)の同学会総会後に贈賞式が執り行われる。フェローとは、研究開

レスブリッジカレッジ副学長、 カナダ研修所所長が来学



カラム副学長(右)とキャン所長

4月8日(火)、提携校のカナダ・アルバータ州立レスブリッジカレッジ(LC)からスチュアート・カラム副学長とカナダ研修所のフィル・キャン所長が来学した。まず一行は波多野学長と懇談し、本学駒場高等学校卒業後にLC留学を経て本学に編入できるプログラムが魅力的で意義深いと述べた。両校ともに実践的教育・研究を志す

本学卒業現職教員の集い 参加者募集

本集いは全国の中学校・高校等に在職する本学卒業現職教員約1,300名と大学との連携を深め、相互の発展を図ることを目的に毎年開催しており、今回で節目の10回目を迎える。関係の皆様は奮ってご参加のうえ、交流を深めていただきたい。

日時: 6月28日(土) 14時から 会場: 日本工業大学 学友会館

内容: ◎現職教員研究発表

- 茨城県立勝田工業高等学校教諭 永井昭夫氏 (昭和61年3月電気工学科卒業)
- 東京都立多摩工業高等学校教諭 滑川綾治氏 (昭和62年3月電気工学専攻修了)
- ◎挨拶・講演
- 学長 波多野純 ・工友会会長 土井嘉豊 ・入試室長 丹澤祥晃
- 教授 菊地信一 講演演題「キャリア教育について」
- ◎グループ討議 生徒指導問題について学生と討議 ◎懇親会

(工業教育研究所)

